

4、術前禁煙について

喫煙している人は呼吸による酸素の取り込みが少なくなり、
心血管系、呼吸器系、創傷治癒（傷の治り）に悪影響を及ぼします。

タバコを吸うことで術後の回復が悪くなりやすいため、
手術をより安全に受けるために、手術が決まり次第、禁煙を始めてください。

◎心血管系への影響・・・狭心症や血栓症が起こりやすくなります。

タバコに含まれるニコチンは交感神経を緊張させるため、血管が収縮します。

さらに、一酸化炭素は体内の酸素不足を引き起こすので、心臓の酸素不足で狭心症発作や不整脈が起こりやすくなります。

また、ニコチンや一酸化炭素によって血管内皮細胞にダメージが与えられ、

血栓（血のかたまり）ができやすくなるため、脳梗塞・心筋梗塞・肺梗塞などの危険が増加します。

◎呼吸器合併症・・・術後肺炎が起こりやすくなります。

タバコに含まれるタールによって肺は慢性的な炎症を起こしています。

喫煙者の手術において、術後に肺合併症を起こす確率は非喫煙者の約3倍との研究結果も出ています。

さらに、喫煙は咳反射を弱めたり、痰を増やしたりする弊害もあるため、

術後に咳をした時の痛みが強くなりやすいと言われてしています。

◎創傷治癒への影響・・・手術の傷が治りにくくなります。

ニコチンや一酸化炭素で細胞が酸素不足になり、傷の治りに必要なコラーゲンの産生量が減るため、手術の傷が治りにくくなったり、化膿したりする可能性が高くなります。

傷の治り具合によって入院期間が延長したり、場合によっては再手術や命にかかわることもあります。



iCOS や glo などの電子タバコにも
同様のリスクがありますので、
それらもやめるようにしましょう。

影響が消えるまでには、ニコチン約12時間、タールは約1か月かかります。

禁煙できない場合、肺の状態によっては手術延期の可能性もあります。

できるだけ早く禁煙し、手術に臨むことが大切です。